

CFPコミュニケーションプログラム 意見公募結果報告書

報告日		2012年10月24日			
意見公募実施期間		2012年 9月24日 ~ 2012年 9月28日			
PCR原案受付番号		PDE-113			
製品の属する分類		画像入出力機器			
意見番号	NO.	該当項目	御意見の内容	御意見の理由	御意見に対する考え方
1	1 2-1	適用範囲 製品種別	CFP-PCR名称である“画像入出力機器”を修正するか、他の画像入出力機器の扱いについて製品種別に記載する。	CFP-PCR名称が“画像入出力機器”となっているが、ユーザー感覚では、デジタルカメラ、Webカメラ等の他製品も画像入出力機器に含まれると思われる可能性が大きい。 提案者意図から外れないように、修正もしくは補足をお願いする。	2-1 製品種別に追記します。
2	2-1 2-2	製品種別 機能	種別によりデータ収集やシナリオが異なることより、機能もしくは仕様から各種別を厳格に決定できる表現とする。	複合機の説明が不足しており(機能そのものの説明も不足している)、複合機とファクシミリの何れでも取得可能な製品が存在しうる。数値比較は意図されていないとしても、同一PCR内の種別選択で数値が異なってしまう状況はユーザーに混乱を与える可能性がある。 提案者意図から外れないように、修正と補足をお願いする。	12-1 追加情報に選択した製品を記載するように修正します。
3	2-1 10-4	製品種別 シナリオ	用途によりシナリオが異なることより、数値に影響を与える用途も製品種別と同じ扱いとし、製品種別項目内に記載する。	ファクシミリのシナリオがパーソナル用とビジネス用で異なっており、数値比較は意図されていないとしても、同一PCR内の種別選択でさえない項目で数値が異なってしまう状況はユーザーに混乱を与える可能性がある。提案者意図から外れないように、修正と補足をお願いする。	同上
4	2-1 12	製品種別 CFP宣言方法	製品種別によりデータ収集やシナリオが異なることより、製品種別が何であるのかの情報を表示することをCFP宣言方法に記載する。	数値比較は意図されていないとしても、同一PCR内の種別等で数値が異なってしまう状況はユーザーに混乱を与える可能性がある。どの製品種別等を使用しているかの明示や記載を行うよう修正をお願いする。	同上
5	2-1	製品種別	文末「このCFP-PCRでは、生産段階～拡大できる。」をトル。	文末「このCFP-PCRでは、生産段階～拡大できる。」はこのCFP-PCRの構成についての説明であり、製品種別の情報ではない。提案者が必要と思う場合は、欄外補足でお願いしたい。	文末の「このCFP-PCRでは、生産段階～拡大できる。」は、削除します。
6	2-4 10-4		「使用・維持管理段階で消費される紙の負荷は含めなくても良い。」を「使用・維持管理段階で消費される紙の負荷は含めない。」とする。 それに合わせて、10-4の紙の枚数算出に関する部分は削除する。	印刷用紙は、画像情報を印刷後に使用する事を目的として使われるのであり、印刷工程において消費されるものではないので、算定対象外とすべきである。もしどうしても印刷用紙の環境負荷を計上する必要がある場合は、使用時に他のデータと区別無しに計上すべきではなく、印刷用紙のみの負荷が判る様にすべきである。	印刷用紙の環境負荷はオプションとして追加表示とすることを12-1 追加情報に記載いたします。

意見番号	NO.	該当項目	御意見の内容	御意見の理由	御意見に対する考え方
7	2-3 2-4	算定単位（機能単位） 対象とする構成要素	消耗品の扱いを明記すること。 それに伴い必要となるなら、他の項目への記載を追加。	算定単位として「製品一台あたり」とあるが、環境ラベルでは消耗品（トナーやカートリッジ、用紙）が製品本体と別ラベルを有することが多い。加えて、製品（価格）として最初の消耗品が含まれていないものも多い。 消耗品に関する項目については、単独でPCR化されることも考慮済であるか、別途検討し組み込む状況とし、それに従い消耗品の扱いを明記をお願いします。	2-4に消耗品を加えるよう修正します。
8	2-4 10-4 12-1	対象とする構成要素 シナリオ 追加情報	紙の扱いについて精査する。 紙の負荷を考慮する場合の扱い、宣言内容追加や負荷考慮範囲を明記する。	対象とする構成要素で「紙の負荷は含めなくても良い」と記載しながら、シナリオでは使用シナリオ計算で使用されない「用紙使用量」についての計算式が記載されている。加えて、追加情報で「紙の負荷計上の有無」が要求されているが、シナリオ等に紙の負荷計上について、用紙の扱いや負荷考慮範囲などについての記載がない。 提案者意図に基づき、修正・追記を希望する。	印刷用紙の環境負荷はオプションとして追加表示とすることを12-1 追加情報に記載いたします。
9	7-2	データ収集項目	「部品」と「包装材」、「付属品」の表を一つにまとめる。	提案者意図でないなら、シンプルな表現を希望する。	1つにまとめます。
10	8-1	データ収集範囲に含まれるプロセス	「下記に示す部品の加工プロセス」箇所を「自社でデータ可能な加工プロセス」に変更し、部品表記を削除する。	7-2)データ収集項目で「社外から調達する場合が大半であるため、「部品」および「包装材」、「付属品」の製造プロセスについては一次データの収集対象外とし、投入量は製品を構成する質量で代用してよい」と記載していることより、特定部品を設定し一次データを強制する必要性が大きいと思えない。	重要な部品として、エコリーフの部品等Aに該当する部品を記載しています。 また、一次データが収集不可能な場合は二次データを使用して下さいとします。
11	8-3	一次データの収集方法および収集条件	製品種別間の表現・レベルを揃える。 表現・レベルが異なるなら、改定時等のため理由を補足する。	下記等の表現・レベルが揃うよう修正をお願いします。 ・(ファクシミリ以外の)EP方式のみ MSDS の材料レベルまで遡る？ ・素管加工以降、塗布までの加工 vs. 素管??以降、塗布までの加工 ・(ファクシミリ以外の)J方式のみプリントヘッドは対象外？ ・(スキャナ)CISのみデータ対象外可能だが、CCDはなぜ対象外にできない？ 等、表現・レベルがバラバラの箇所が多い。 提案者意図でないなら、精査をお願いします。	わかりやすく文章を修正します。
12	8-3	一次データの収集方法および収集条件	「自社でデータ収集不可能な場合は、二次データを使用してもよい」に係る箇所が明確になるように記載する。 「自社でデータ収集不可能な場合」の例規を記載する。	感光体素管の加工のみ「データ収集不可能な場合は、二次データを使用してもよい」(CISはデータ収集対象外)となっているが、項目のいくつかは二次データ使用不可である説明が必要である。 「データ収集不可能な場合は、二次データを使用してもよい」の表現が良くない、「GHGprotocolスコープ1,2範囲は一次データ収集とし、それ以外もしくは影響の小さな項目は二次データを使用してもよい」など、現状に即した表現を希望する。	わかりやすく文章を修正します。

意見番号	NO.	該当項目	御意見の内容	御意見の理由	御意見に対する考え方
13	8-5		副資材については原材料調達段階についてもデータ収集対象外とする。	画像入出力機器の生産工程においては、昨年度の試行事業のCFP算定(CV-BQ01-001)で副資材の影響が極小であることは実証済なので、副資材の負荷は対象外としても問題がない。	記述を5-2に移し、わかりやすく文章を修正します。
14	10-4	シナリオ	4週×12ヶ月(48週/年)でなく、52週/年で計算。 同様に20日×12ヶ月(240日/年)でなく、5日×52週(260日/年)で計算。	昨今、52週/年での表現を見ることが多い(ex.家庭の省エネ大事典2012版[METI]、森林内での活動におけるばく露リスクの考え方[MOE]、他)。関連業界ならびに世界動向を考慮した上での、修正と補足を願います。	エコリーフでの期間に揃えていますので、問題なしと考えております。
15	10-4	シナリオ	生涯印刷枚数についてのシナリオを追加する。 文面・構成等の精査を行う。	使用・維持管理段階の負荷算定として基本シナリオがあるが、生涯印刷枚数の基本シナリオが記載されていない。 また、独自に設定可能な稼働条件、印刷モード、生涯稼働時間、生涯印刷枚数なども読み取りづらいことより、文面・構成等の精査も願います。	わかりやすく文章を修正します。
16	10-4	シナリオ	両面印刷割合[%]、印刷割合[%]ではなく、両面印刷割合[%]/100、印刷割合[%]/100で計算。	用紙使用量や印刷画像数の箇所。 ミスと思われる。確認の上、対応をお願いする。	[%]を削除します。
17	10-4	シナリオ	生涯印刷画像数 [枚]=生涯印刷画像数 [枚]×(0.5×2in1 印刷割合[%]+(1-2in1 印刷割合[%])) で両方に生涯印刷画像数があるのを修正。	2in1 印刷機能の箇所。 ミスと思われる。確認の上、対応をお願いする。	わかりやすく文章を修正します。
18	10-4	シナリオ	「消耗品の使用個数は、小数値は切り上げない」となっているが、エコリーフと整合を取ったほうがよい。(どちらも切り上げない又はどちらも切り上げる)。	・統一したほうが良い。	PCRに記載しました通り、1シナリオの条件ではお客様の使用形態を十分に反映できないと考えています。端数を切り上げないことによってお客様の使用形態に沿った推計がより可能となると考えています。
19	10-4	シナリオ	②プリンター及び複合機(IJ方式)と③ラージフォーマットプリンターの稼働条件について、使用方法が拡大してきている。 (個人コースのみでなく企業内コースなど) 「1日××枚または各社の想定印刷枚数にて設定する。」としたらどうか。	・実態に合わせて自由度を持たせたほうが良い。	10-4の後半部分に全体を網羅して記載しております。
20	10-4	シナリオ	生涯印刷画像数についての定義を明確にし、定義に基づき関連箇所を再構築する。 (2in1 印刷機能の箇所で生涯印刷画像数未定義とも関係すると思われる)	考え方の錯綜がみられるので、再考・精査をお願いする。 2in1であろうがなかろうが機器としての生涯(機器)印刷画像数(ex.A4印刷面数)は変わらない。 2in1であれば機器が受け取る生涯印刷(受け)画像数(ex.A4用紙相当の印刷依頼面数)が2倍(全部2in1時)となるのみで、機器の寿命は生涯(機器)印刷画像数(ex.A4印刷面数)依存のはずです。	わかりやすく文章を修正します。

意見番号	NO.	該当項目	御意見の内容	御意見の理由	御意見に対する考え方
21	10-4	シナリオ	<p>※2-4項記載の「使用・維持管理段階で消費される紙の負荷は含めなくても良い。」を「～紙の負荷は含めない。」に変更した場合は、下記意見は不要となるが、その変更をしない場合は10-4項において以下の変更が必要と思われる。</p> <p>P11の算定例の記述において、両面印刷機能から始まるパラグラフの上に「生涯印刷枚数」と入れる。そして1)「生涯消費電力」2)「生涯印刷枚数」のように区分が明確になるように記載する。</p>	<p>事例の記載において、両面印刷機能以降の説明が消費電力の算定の一部であるかのように読めてしまうので、区分が明確となるように記載すべきである。</p>	<p>両面印刷機能に関する文書は削除します。</p>
22	11-4	シナリオ	<p>リユースシナリオとして、リユース機器を考慮したシナリオを追加する。それに伴い必要となるなら、他の項目への記載を追加。</p>	<p>リユースシナリオとして、下記2パターン以上存在していると思われるが、一方の説明にしかっていない。確認の上、修正・追記をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新造機にリユース部品等が組み込まれる(同一機器扱い) ・リユース部品(機器)をベースに機器を作成(別機器扱い) 	<p>別機器扱いの場合は、別機器として算定されるため、一製品の算定としては不適当と思われます。したがってここでは同一機器の場合のみを記載しています。</p>
23	11-4		<p>①複写機、プリンタおよび複合機(EP方式)の「製品回収率」の項に記載される「製品回収率は40%とする。または、実績値でも良い。」を「製品回収率は類似製品の実績値とする。実績値の把握が困難な場合は、実績値を上回らないことを前提として固定値を使用しても良い。例えば40%。」と修正する。</p> <p>③ファクシミリに関する同様部分も上記と同じように修正する。</p>	<p>現在の記述では、現実には回収していない場合などであっても、回収率を40%とすることを要求していることになる。算定においては、原則として一次データを優先すべきであるので、実績値をまず求める記載にし、実力以上の算出も要求してしまうような記載は修正すべきである。</p>	<p>エコリーフでの回収率に揃えていますので、問題なしと考えております。ただ、実績値を優先すべきと思いますので、文章を修正します。</p>
24	11-4		<p>①複写機、プリンタおよび複合機(EP方式)の製品リユースの場合のところの1行目「設計値に基づき・・・」は、「実績値に基づき・・・」とすべきである。</p>	<p>製品リユースについては、設計時点での見込みと回収実績によって、実際にリユースされる実績量が大きく異なる場合があるので、設計値では望ましくない。</p>	<p>わかりやすく文章を修正します。</p>
25	11-4		<p>リユース部品やリサイクル部品の控除量をどのようにGHG排出量として反映させるか、の具体的な記述が無い。</p>	<p>控除部品量を環境負荷数値に換算する具体的な算定方法(リユース部品の原材料調達部分のみか、生産、流通部分も含めるか、リサイクル部品とリユース部品との差異等)が示されていない。また仮に算定出来たとして、その数値をエコリーフのように廃棄・リサイクル段階のみでマイナス値として併記する、製品原材料や使用時の定期交換部品の負荷をオフセットするかのように示す、全体数値に対して単にマイナス値として減じるだけ、等が考えられるが、表現方法をきちんと規定しないと、受け手の混乱を招きかねない。</p>	<p>リユース・リサイクルの取り扱い基準は、CFP算定・宣言要求事項の2.7.1および2.8で規定されています。間接影響の控除は、追加表示のみで可能となります。なお、クロズドリサイクルの場合はこの限りではありません。</p> <p><事務局からの回答></p>

意見番号	NO.	該当項目	御意見の内容	御意見の理由	御意見に対する考え方
26	11-4	シナリオ	廃棄物の処理方法において、非回収ルートは、一般家庭では一般廃棄物（市町村責任）でよいが、企業コースにおいては産業廃棄物（排出者責任）である。「一般廃棄物（市町村責任）または産業廃棄物（排出者責任）として廃棄処理される。」としたほうが良い。	・企業コースの製品に対しても考慮すべきであるため。	産業廃棄物（排出者責任）を加えた内容に修正します。
27	12-1	追加情報	製品の仕向け先とはどの程度のスケールかの明記を行う。 それに伴い必要となるのなら、原単位選択への記載を追加。	製品の仕向け先が外国(エリア?、国?)も想定されるなら、仕向け先による原単位(電力、物流[トンキロ]等)の対応が記載されていない。	仕向け先は、国や地域、全世界などさまざまなレベルが想定されます。仕向け先に応じた検証がなされるので、問題なしと考えております。
28	12-1	追加情報	”紙の負荷計上の有無”という記載は削除する。	2-4記述において「紙の環境負荷は含めない。」という記述にすれば、ここでの記載は不要である。	印刷用紙の環境負荷はオプションとして追加表示とすることを12-1追加情報に記載いたします。
29	全般		本PCRの中で「実績値でよい」という記載が多いが、「実績値を用いる場合はエビデンスを必須とする」という文言を追加する。	PCRの中で規定するものではないが、「実績値」で設定する場合はそのエビデンス、出典を明確にしなければいくらでも数値を小さく算出できてしまう。	ここで言う「実績値」とは、「一次データ」をさすと考えられますが、CFP算定・宣言要求事項の2.5.2にある、一次データの品質基準の中に【再現性の基準】として”データの根拠が明確であることとする”とあり、上位文書で必須となっております。 <事務局からの回答>